

人体の構造と機能Ⅴ	2 年・前期	1 単位 15 時間	教授 堀金幸栄
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32110252

1. 授業のねらい・概要

看護学生が看護の対象である人間を理解するためには、その生物学的側面である人体の構造と機能を学習する必要がある。人体の構造と機能の科目では、解剖学と生理学を結びつけて学習し、学生が複数の要素を理論的にまとめた内容として理解できるようになることを目的とする。人体の構造と機能Ⅴでは、感覚器系、骨格系、筋系について学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 学生が視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚・体性感覚・内臓感覚のしくみを説明できる。(D-2)
2. 学生が骨と骨格、関節の構造と機能を説明できる。(D-2)
3. 学生が各種筋（骨格筋・平滑筋・心筋）のそれぞれの構造と機能を比較して説明できる。(D-2)
4. 学生がさまざまな運動に必要な骨格筋と、その支配神経の名称を述べるができる。(D-2)
5. 学生が眼科・耳鼻科・運動器疾患を理解するために、感覚器系、骨格系、筋系の解剖生理学的知識を説明できる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義を中心に進めるが、動画の視聴や参考資料のプリントの配布も行う。

【アクティブ・ラーニング実施有無】

アクティブ・ラーニングとして小テストを行う。

【ICT 活用の有無】

小テストの範囲を Google Classroom にて指示する。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	感覚系 1) 特徴, 視覚 P406～417 予習で精読のこと【P400～405】	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金幸栄
2	感覚系 2) 聴覚と平衡覚 P418～425	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金
3	感覚系 3) 化学的感覚（味覚と嗅覚）、体性感覚、内臓感覚 P426～435 予習で精読のこと【P426・437】	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金
4	骨格・筋系 1) 骨と骨格・頭蓋、体幹の骨格 P92～105 予習で精読のこと【P86～88】	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金
5	骨格・筋系 2) 体肢の骨格・関節の構造と種類 P106～121	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金
6	骨格・筋系 3) 筋の種類・筋の機能・運動と骨格筋 P122～132 予習で精読のこと【P89～91】	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金
7	骨格・筋系 4) 骨格筋の解剖生理 P133～143 予習で精読のこと【P144, 145】	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：講義で強調されたテキストの内容を確認し、配布プリントと照らし合わせる。	堀金

			認し、配布プリントと照らし合わせる。	
8	運動系（骨格・筋系）のまとめ 予習で精読のこと【P119】 定期試験	講義 試験	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲 を読み、不明点を把握して授業に臨む。 復習：定期試験で間違ったところを中心に復 習する。	堀金

5. 成績評価の方法・基準

毎回の授業冒頭の小テスト（2点/回 x8回＝16点）と定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）84点の合計100点満点で評価する。小テストは事前に問題を出題する。定期試験の出題範囲は授業で取り扱った内容全てで、試験問題の点数は授業時間に比例して配点する。評価基準の詳細は單元ごとに示す。成績評価は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に採点する。尚、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：武田裕子，林正健二編（2023）：ナースング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学 第5版 メディカ出版。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲について最低90分の予習及び授業内容について90分以上の復習を行なうこと。

8. 受講上の留意事項

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験の結果と模範解答は後日掲示する。質問・疑義は授業で，あるいは適宜個別に説明・対応する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施されます。

看護師ならびに看護系研究者としての実務経験を活かして，講義を行う。